

## 1 経営的特徴と導入方法

ヒマワリは、春播きの一年草で、耐寒性はない。腐植質に富んだ肥沃な粘質土での排水性がよく、弱酸性土壌が適している。切り花生産が一般的で、わい性種は鉢物として生産され、労力がかからない省力的な品目である。本県では水田転作地で栽培され、近年生産が急激に伸びた品目である。

光周性反応に品種間差があり、ハウスを活用すると周年栽培が可能であり、一作の期間が100日前後で10a当たり労働時間が700時間程度なので、補完品目として他の品目と複合的な経営が容易である。

表1 10a当たり作業別、旬別所要労働時間（単位：時間）

### ① 作業別労働時間

項 目	時 間	項 目	時 間
耕 起 整 地	8.7	防 除	7.4
保 温 施 設	1.3	収 穫 調 製	359.8
基 肥	4.7	後 片 付 け	28.7
定 植（播 種）	67.9	選 別 包 装 荷 造	146.3
中 耕 除 草	18.6	搬 出 ・ 出 荷	28.5
追 肥	5.6		
栽 培 管 理	37.3	合 計	714.8

(注)

- 平成10年産生産費調査結果（平賀町、碓ヶ関村）
- 出荷本数 21,707本/10a  
5月播種8月出荷

### ② 旬別労働時間

月	1 月			2 月			3 月			4 月			5 月			6 月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
時間												1.3	2.7	65.3	18.6	20.0	6.3	5.0

7 月			8 月			9 月			10 月			11 月			12 月			合計
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
12.0	5.9	8.0	25.7	208.0	249.4	80.6	6.0											714.8

## 2 生理生態

原産地：北アメリカ

### (1) 生育適温

ヒマワリの生育適温は、20～30℃でかなり高いが、0℃にならないければ生育自体は可能である。しかし開花させるためには、冬期10℃以上の加温や保温が必要である。



～80日で開花するため周年を通して利用できる。また、形質が揃い、生育が旺盛で作りやすく、またF<sub>1</sub>品種の大部分は、雄性不稔のため花粉が出ないので、花自体も美しく周囲を汚したりしない。加えて種子ができないので花持ちも良い。このため、本県では栽培が容易なF<sub>1</sub>品種（その殆どがサンリッチオレンジ）が多く利用されている。

## 4 栽培

### (1) 本畑準備

#### ア 土壌改良及び施肥

堆肥の施用量は、a当たり200kg程度でよい。通常の畑地では基肥は施さず、生育を見て適宜追肥する。pHは5.5～6.5程度に調整する。

#### イ 畦づくり

ベット幅80～120cm、通路50～60cmとする。通常は平畦とするが、排水の悪い場所では高畦とする。

#### ウ ネット張り

フラワーネットは、一般的には12cm×12cmを2段に張る。ただし、前作等の状況により残効肥料が多い場合は、10cm×10cmを使用する。

### (2) 播種

ネット編み目の中央に1粒づつは種し、覆土は種子が隠れる程度とする。

播種直後かん水し、乾燥が続く場合は、発芽までは随時かん水する。

### (3) 発芽後の管理

#### ア 追肥

葉色を見て薄い液肥を与えるが、下葉を黄化させない程度の少量とし、やりすぎに注意する。また出らな後は施用しないようにする。

#### イ ネット上げ

草丈20～30cmになったらネットを2枚同時に上げ、下の1枚はそこで固定する。上の1枚は、生育に合わせて随時上げる。

## 5 主要病害虫とその防除対策

### (1) 病害

斑点細菌病、うどんこ病、さび病、べと病、菌核病、灰色かび病、空洞病などが主要なものとされている。

うどんこ病を除き多湿な条件下で発生しやすいので、排水の良い畑を選び、通風・換気に留意して栽培する。

なお、細菌性の空洞病に対してドイツボルドー500倍液の登録がある。

### (2) 虫害

ハモグリバエ類が葉を加害するが、他の害虫も含めて県内では不明な点が多い。

## 6 収穫・調製・出荷

花卉が完全に開き、外側の管状花が開花したころ、地際から刈り取り収穫する。その後、上部葉3～4枚残して下葉を取る。

ただし、市場によって切り前、規格、残す葉の数等が異なるため、出荷前には必ず確認する。

### 参考・引用文献

- 1) 淡野一郎、「農業技術大系花卉編8、1・2年草：ヒマワリ」、農山漁村文化協会（平成12年）
- 2) 宮城県、「みやぎの花き栽培指導指針：ヒマワリ」（平成12年）
- 3) 笹木悟、「花き栽培－基本技術マニュアル－：ヒマワリ・F<sub>1</sub>サンリッチオレンジの栽培技術」農耕と園藝53（10）、誠文堂新光社（平成10年）
- 4) 青森県平賀地域農業改良普及センター、「ひまわり栽培講習会資料」（平成10年）
- 5) 青森県木造地域農業改良普及センター、「ひまわりの栽培暦」（平成10年）

# ヒマワリ露地栽培ごよみ

月	旬	生育 状況	作 業	栽 培 の 要 点	摘 要						
3	上		定植床準備	1 作型と品種 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>品 種</th> <th>播 種</th> <th>採 花 期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サンリッチオレンジ</td> <td>4～5月</td> <td>7～8月</td> </tr> </tbody> </table>	品 種	播 種	採 花 期	サンリッチオレンジ	4～5月	7～8月	
	品 種				播 種	採 花 期					
	サンリッチオレンジ				4～5月	7～8月					
中											
下											
4	上	は 種	は 種	2 本畑準備 (1)土壌改良と施肥 (成分量 kg/a) 堆肥：200 基肥は施用せず、追肥で管理する。 (2)畦づくり ベツ幅80～120 cm、通路50～60 cm (3)ネット張り 12×12 cmのフラワーネットを2段張る。							
	中										
	下										
5	上	種 期	種 期								
	中										
	下										
6	上	生 育 期	生 育 期								
	中										
	下										
7	上	開 花 期	開 花 期	3 播種 ネット編み目の中央に1粒ずつ播種し、覆土は種子が隠れる程度とする。 播種直後かん水し、乾燥が続く場合は発芽まで随時かん水する。							
	中										
	下										
8	上		収 穫	4 発芽後の管理 (1)追肥 葉色を見て薄い液肥を与えるが、下葉が黄化させない程度の少量とし、やりすぎに注意する。また出らい後は施用しないようにする。 (2)ネット上げ 草丈が20～30 cmになったらネットを2枚同時に上げ、下の1枚はそこで固定する。上の1枚は、生育に合わせて随時上げる。							
	中										
	下										
9	上		収 穫	5 収穫 花卉が完全に開き、外側の管状花が開花したころ、地際から刈り取り収穫する。その後上部葉3～4枚の残して下葉をとる。							
	中										
	下										
10	上		収 穫								
	中										
	下										
11	上		収 穫								
	中										
	下										
12	上		収 穫								
	中										
	下										
1	上		収 穫								
	中										
	下										
2	上		収 穫								
	中										
	下										